

平成30年第1回北海道議会定例会予算特別委員会〔建設部所管〕開催状況

開催年月日 平成30年3月13日(火)
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
 担当部課 建設部土木局道路課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 道路の安全対策の取り組みについて</p> <p>(一) 舗装路面の損傷について はじめに、道路の安全対策の取り組みについて伺います。私の住む旭川でも、3月に入って雪解けが進んでまいりました。それとともに舗装のひび割れや穴の様に路面が陥没しているという状況が、今年は特に多く見受けられているところですが、除雪の要望とともに安全対策を求める声が寄せられております。こうした舗装の損傷現象は、どのような原因で発生するものなのか、また、どのように対応していくのか、はじめに伺います。</p> <p>(二) 道路陥没の発生状況について 適切に管理するということが、舗装表面の穴ぼこを速やかに直すということはもちろん、これ重要なことなんですけれども、また、昨今、路面下の空洞が原因とみられる道路陥没が全国で多発しております。国の発表によりますと、全国では、年間1万2千件以上の道路陥没が発生しているとのこととあります。北海道が所管する道道における道路陥没の発生状況はどのようになっているのでしょうか。</p> <p>(三) 道路陥没に対する取り組みについて 今後地下埋設部の老朽化等の問題もありますので、こうした問題が出てくるかと思うんですけれども、旭川市では、過去に道路管理者が調査し、その結果、5箇所小さな、小規模な空洞が発見され、そのうち3箇所は砂利を埋めて補修したと新聞報道がありました。道路における陥没を未然に防ぐため、こうした調査は大変重要と考えますが、道として、今後どのように取り組みを進めていくのか伺います。</p> <p>(四) 今後の安全対策の取り組みについて 今、答弁いただきましたように、北海道は寒冷地特有の厳しい気象によって凍上が起こるために、舗装の傷みも一段と厳しいことが伺えます。道路の舗装は、目に見える表面のひび割れや穴ボコだけではなくて、目に見えない内部の空洞についてもしっかりと対応が求められるということですが、日常生活や通勤・通学、通院、救急搬送や物資の輸送など、道路は、住民生活にとって欠くことのできない重要なものがございます。一方でこれだけ延長してきた北海道の舗装道路を維持管理していくために、道としても格段の努力が必要かと思っておりますが、今後の取り組みについて伺います。</p> <p>しっかりと取り組んでいただきたいというふうに思います。</p>	<p>○道路課長 宮下 忠昭 舗装路面における穴ぼこの発生についてでございますが、融雪期にひび割れや欠損がある部分に水が入り込み、凍結融解の繰り返しにより、舗装の小さな穴が拡大することが主な原因であるとされております。 このような穴ぼこを放置しておくことは道路交通に支障をきたすことから、道といたしましては雪解け時に道路パトロールの強化を図るとともに、舗装の穴ぼこを確認した場合には速やかに補修を行うなど、適切な路面管理に努めてまいります。</p> <p>○道路課長 宮下 忠昭 道道における道路陥没の発生状況についてでございますが、過去5年間では、路面下の空洞が原因と思われる道路陥没が31件発生しておりまして、その主な原因は、道路排水管等の破損に伴う路盤の吸い出しによるものとなっております。</p> <p>○道路課長 宮下 忠昭 道路陥没に対する取り組みについてでございますが、道では、平成25年度からの4年間で、全道の建設管理部において、試行的に路面下の空洞調査を行ってきたところであり、この結果を踏まえまして、今年度から市街地を優先するとともに、交通量や路線の重要度に応じて頻度を設定するなど計画的に調査を進めており、引き続き、路面下の空洞の早期発見に努めてまいります。</p> <p>○土木局長 清水 文彦 今後の舗装路面の維持管理についてでございますが、道路は、住民の暮らしや経済活動を支える重要な社会基盤でありますことから、安全で円滑な道路交通を支える上で、道路の適切な維持管理は極めて重要であると認識をしております。 道といたしましては、「公共土木施設の維持管理基本方針」に基づき計画的なパトロールを実施し、路面の損傷を発見した際には速やかな補修を行い、損傷の拡大を防ぐなど適切な路面管理に努め、安全・安心な道路交通の確保に取り組んでまいります。</p>